

『周術期看護』 研修会実施報告

日時 : 令和4年10月13日(木) 8:30~12:30

対象者 : ラダーⅢ~Ⅳを目指す者

参加者数 : 20名

目的 : 手術侵襲に対する生体反応を理解し、術期ごとの観察ポイントや看護技術を学び、看護実践に活用することができる

<講師の紹介>

中央手術室 主査
特定看護師
臨床工学技士



<内容>



今回の研修は、周術期における身体への侵襲や、生体反応を学び、急変予測へ繋げ看護実践にいかしていくことを念頭に置き、実際の対応について講義をしていただきました。術前期では、中止薬や継続薬、術前点滴や術前経口補水液補給の目的や根拠について学びました。術後の早期回復を目指すために、術前から行うプレハビリテーションについても教えて頂きました。

術中看護では、麻酔の種類や挿管介助の方法、シバリングが起こる原因、術中の体温低下が体に及ぼす影響、CVCIの際の対処方法、悪性高熱症、局所麻酔薬中毒に

ついて教えて頂きました。興味深く関心を寄せ、真剣に聞かれていた姿が印象的でした。

術後の疼痛管理については、「重度の術後疼痛の緩和に要した時間の長さ」が、遷延性術後痛のリスクファクターの1つの要因となることを学びました。手術別遷延性術後痛の発生率を考慮しながら、いかに素早く疼痛を緩和することが、患者さんにとって大切なことかに気付くことができました。

研修での学びをスタッフと共有し、業務へ取り入れながら、日々の看護に活かしてほしいと思います。